



能登 祈る元日

大地震1年 復興半ば

奥能登は1日、静かな正月を迎えた。石川県珠洲市の海を
岸では雲の切れ間から、初日
の出が見られた。

あの大地震から1年。県内
では関連死も含め498人の



能登半島地震から1年、見附島の奥に光差す初日の出。「災害のない平和な1年になってほしい」と同級生と訪れた女性(19)は話す(1日午前7時50分、石川県珠洲市で)＝大金典典撮影

命が奪われた。地震と豪雨の被害で県道は今も10路線で通行できず、約7000戸で断水が続く。公費解体が終わった家屋は4割にとどまる。人口減少になりわいの再建。取り組むべき課題は多い。

能登の未来をどう描くのか。阪神大震災の教訓を伝える建築家の野崎隆一さんは、「新しいまちに住み続けるといふ決意は、話し合いに参加する中で生まれる」と語る。行政が住宅や集会所といった「器」を用意して終わりではなく、住民が意見を出し合い、納得しながら「器」を一緒につくることが重要になるという。

珠洲市の須須神社に家族4人で初詣に訪れた市内の河原博志さん(43)は、地震で自宅が被災した。「今年はみんな平和に過ごせるように、と祈った。近所の人も避難したままなので、にぎわいが少しでも戻るとうれしい」と話した。ふるさとの再生が本格的に始まる1年となる。



被災者の思い
松井さんらエール

能登の思い 能登への思い

風化させない 気にかけて続ける



松井秀喜さん 50
元プロ野球選手 能美市出身

七尾市が私のふるさとです。取れたての魚をさばいて食べ、搾りたての牛乳を飲む。このような日常で味が磨かれたのだと思います。

地震後、まもなく現地に行きました。建物が倒れ、見慣れた風景が変わってしまっている。これからどうなるのだろうという恐怖と不安に襲われました。

できることをしようと、珠洲市の塩を使ったシュークリームを販売して「食べて応援」を実践しています。能登のワインやユズなどを使ったチョコレートは、フランスの品評会で金賞を取って、能登の食材のすばらしさが世界に伝わりました。今後も能登の食材の魅力を生産者の未来に光を当てていきたいです。

能登の言葉で「あきらめんとへ、がんばっていかんかいね(諦めないで、がんばろうよ)」と伝えたい。僕も人生を懸けて、能登の復興に取り組むつもりです。

辻口博啓さん 57
パティシエ 七尾市出身



能登の皆さん 本当に強い



金城(旧姓川井)梨紗子さん 30
リオデジャネイロ、東京五輪・女子レスリング金メダリスト 津幡町出身

11月に日本オリンピック委員会などが主催する復興支援イベントで輪島市を訪れ、小中学生と交流しました。福井県敦賀市の自宅から現地に向かう道中、倒壊した家屋や土砂崩れで中ぶらりんになったガードレールなどが手つかずのまま残されているのを見て、言葉が出ませんでした。

イベントでは元気のない表情を見せる子が気になりました。あの日と変わらぬ風の中で暮らすことを強いられている方々は、ずっと心が痛いまなんだと実感しました。輪島市には小学生の時、金沢市のジュニアレスリングクラブで仲の良かった友達のおじいちゃんに住んでいた縁で遊びに行きました。自然豊かで、人がとても温かい地域です。

復興に向けて歩みを進める能登の皆さんは本当に強いと思います。石川県出身のアスリートとして支援の輪を広げる力に少しでもなりたいです。

再開したら息子と一歩列車に

何年にも感じる自問への答え。一年を過ぎ、さまざまな日常が一歩列車と交差しました。地震発生後、約1週間ほど車泊した後、約3か月間、町内の実家に身を寄せました。長男の壮真は、なぜか帰れないのか分からない様子。共働きの自車を片付けられるのは遠慮せず、車で仕事をさせ、夫と交代で進めました。



上平万友さん 38 壮真ちゃん 3
穴水町 公務員

地元へ元氣 届けられたら



大の里 本名・中村泰輝さん 24
大関 津幡町出身

新入籍の場所前(2024年初場所前)、これからだということろで地震がありました。自分の相棒で地元へ勇気を届けられればと思つて土俵に上がりました。

おかげさまで初場所は11勝。石川のみなさんに、大の里という存在を知ってもらおう、結果で能登のみなさんに報告しようと思ったから頑張りました。

石川を離れた高校や大学の時、帰省したら友達と能登へドライブに行っていました。2月に能登へ行った時は胸が痛くなるような風潮ばかりでしたが、避難所の方が泣いて喜んでくれました。どのスポーツとも違う、郷土のお相撲さんの力はとてもすごいのだと実感しました。

優勝2回、大関に昇進して、ちょっとでも元気が届けられたかなと思っています。昨年以上に精古し、もっといい報告を届けたい。大変な状況は続きますが、一緒に頑張りたいです。

大切なもの 思い起こして



仲代達矢さん 92
俳優 七尾市の能登演劇堂名誉会長

あの元日の地震からもう1年だ。この元日、能登では道端に崩れ落ちた家屋が目に入ることもなく放棄され、戸口が歪んで傾いた空き家が玄関に赤紙を貼られたまま忘れ去られたかのようひっそりと佇んでいます。しかし、母の家の人も人が住み、祖父や祖母、父と母、そして子どもたち3世代が建てた、生き生きとした時代があったのです。能登半島は道端の進んだ地域でもあっても、そこには、便利な生活が片付けられない、確かな、人間の暮らしがありました。その「確かさ」は、山や川や海などの自然を愛し、自然の営みと足を揃えて歩くことであり、日本の近代化とともに各地どこでも失われていったものです。その大切なものが、幸ひじて能登には残っていた。いま一度、それを思い起こしてほしい。必ず我々の未来につながるものだと思います。

少しでも役に 姉妹で動画



恒村(旧姓川井)友香子さん 27
東京五輪・女子レスリング金メダリスト 津幡町出身

地震が発生した時は津幡町の実家に帰省していました。姉の梨紗さんや両親と一緒に出かけていた金沢から急いで戻ると、家の壁がひび割れ、食器棚の中身が外に飛び出て散らばっていました。停電と断水が数日間続き、不安な日々を過ごしました。

思い出の場所は、もっと深刻な被害を受けました。小中学生の時にレスリング大会で何度も訪れた志賀町の体育館は震度7の揺れで使用不能に。東京五輪後、姉妹で金メダルを獲得したお祝いでお家族旅行に出かけた七尾市も震度6強を観測し、現地の惨状を見るたびにショックを受けました。

「石川出身の川井姉妹」として知ってもらっていることが少しでも役立つと、地震発生直後、姉妹で発信しました。1年がたつけれど、今も困っている人たちがたくさんいることを忘れてほしくありません。

独立リーグで活躍してほしい

高校のグラウンドは能登が入り、使えなくなりました。プロを目指していた野球も、できなくなり、部員4人全員で練習を再開したのは1月中旬でした。



東野健仁さん 18
穴水町 穴水高校3年

祖父が作った「村」継ぐ選択

祖父が作った自然体験の里山「アロン」の小さな村を継ぐことを決め、10月1日前に会社を辞めて帰郷しました。



古矢拓夢さん 25
能登町 ケロンの小左村副村長

高校生活 当たり前ではないんや

全国から来た自衛隊、避難所や仮設住宅建設に大人数の人たちとたくさん大人の日々感謝しています。



吉浦謙心さん 17
輪島市 輪島高校2年

今年は友達と旅行に行きたい

この1年を振り返ると「よく生きていたな」という言葉が、地震発生後、約2か月の避難生活を経て自宅へ戻り、9月、大雨で川が氾濫し、前雨の道幅最大約7分の1に狭まりました。



二角賢一さん 77
輪島市 タクシー運転手

町野を離れる生き方はできない

店は輪島市の町野地区で唯一のスーパーです。地震で地区の家が被災する中、一日も休まず営業を続けました。



本谷一知さん 47
輪島市 もらふストア店主

とにかく目の前のことを一つずつ

金沢市と輪島市で2拠点生活をしています。昨年の元日は輪島の実家へ帰りました。



田谷昂大さん 33
輪島市 田谷楽器店代表

大変なことがたくさんあった。でも

能登半島地震では市内の飲食店事業者の多くが被災しました。事業者のなりの再建と被災者の健康維持を目的に3月8日、避難所へ直へてもう1歩進めようという思いで、飲食店事業者が「道の駅すずり」の敷地内、イトイン店舗「すずキッチン」を運営しています。



坂本信子さん 56
珠洲市 仮設店代表

親から継いだ船で、輪島の海で

地震後は、両親と妻とでも4人、どう生きていけばいいかわからなかった。自問自答、いかにあきらめず進めよう、と家から出ました。避難所で生活は苦しかったです。1月1日に2歳になった子の誕生日を、ケーキを買ってお祝いしたことがありました。



沖崎竜太さん 42
輪島市 漁師

きっと答えは見えてくる

地震から3日目、電気もガスも水もない宿にあり、石油ストーブをたいて一人でご飯を炊きました。不思議なことに、「これもまた人生」と心は落ちついていました。



松田恭造さん 74
珠洲市 灯り宿まつ荘住営



能登 この1年

1月	2月	
3月	4月	5月
6月	7月	8月
		9月
10月	11月	12月

- 1月 輪島市の朝市通り周辺に架かった虹 (9日)
- 2月 輪島市の重蔵神社で行われた節分の豆まき (3日)
- 3月 珠洲市の県立飯田高で卒業式 (1日)
- 4月 再開した「のと鉄道」 (13日)
- 5月 白米千枚田で行われた田植え (18日)。大雨被害も受けたが再整備を目指す
- 6月 珠洲市で行われた運動会 (1日)
- 7月 能登町の伝統行事「あはれ祭」で練り歩く巨大灯籠「キリコ」 (5日)
- 8月 降起した輪島港で進むしゅんせつ作業 (1日)
- 9月 大雨で床上浸水した輪島市の仮設住宅を片付けるボランティアら (24日)
- 10月 約9か月ぶりに再開された輪島市の県立輪島漆芸技術研修所 (7日)
- 11月 輪島港の降起で漁船が横付けできずベルトコンベヤーで水揚げされるカニ (8日)
- 12月 七尾市の港に係留された遊覧船に飾られたメッセージ (12日)

写真で見る「被災地の今」はこちら


